

相模鉄道本線・星川駅の高架下空間における
公共スペースの活用に向けた事業者の皆様との
「対話」 （サウンディング型市場調査）
実施結果

令和5年11月

横浜市こども青少年局企画調整課

1 対話期間と申込事業者

(1) 対話期間

- 令和5年10月24日(火)～26日(木)

(2) 申込事業者

- 3事業者

(1) 新たな「親子の居場所・遊び場の創出」のために必要な機能、そこでできる体験について

- 「企業を巻き込んだ新しい体験価値による居心地の良い親子の居場所づくり」をコンセプトに、絵本や科学、アートなどのコーナーを設け、こどもの主体性と創造性を育む、親子で遊べるコンテンツを提供する。
- イベントなどを定期的 to 実施し、様々な体験ができる場所としても活用頂ける仕組みがあると良い。
- 「こどもや子育て中の方々にやさしい空間づくり」のために、コーディネーターを配置し、こどもが自由に動け、親が周囲の目を気にせずくつろげるスペースとする。
- シームレスな支援情報のアウトリーチとして、サポートが必要になる前から情報に触れるしかけをつくる。

(2) 当該施設の活用内容・イメージについて

- こどもが体を使って遊べる遊具、落ち着いて集中して遊べる遊具のコーナー
- 親子のコミュニケーションを促進する絵本コーナー
- 保護者がくつろぎながら子どもを見守れるイートインコーナー
- こどもと日常的に関わる機会がない人も含め、誰もが立ち寄りやすいカフェ
- 子育て関連書籍や、セミナーが視聴できるコーナー
- STEAM教育やアートに関連したコーナー
- 周辺の住民、来訪者の出逢いや憩いの場
- 企業の商品開発の実証、新製品の情報提供の場
- 大学や保育園・学校と連携した子どもの成育環境の質を高める実践の場
- 地域情報の発信及び地域のネットワーキング拠点

(3) 周辺施設等との連携によるまちづくり(コンセプトや地域との連携) について

- 近隣の学童保育施設、保育施設、体操教室との連携によるサービスの実施
- 地域の飲食・物販の店舗などとのコラボによる相互誘客
- カフェテナントとの連携による配達サービス
- 星天qlayの他店舗と連携した、アートや読書イベント、マルシェなどの実施
- 地域子育て支援拠点「こっころ」との連携による事業の利用促進
- 星天qlayの事業者との連携によるこども・親子向けプログラムの開発
- NPO等との連携による学習支援、ボードゲーム大会の開催
- 周辺施設、地域団体、商店会等への周知

(4) 事業方式の見込みや希望について

- 事業主体は市による運営を希望(業務委託や指定管理者制度等)
- 事業主体は弊社による運営を希望するが(賃貸借契約等)、イニシャルコストとランニングコストは、市での負担を希望
- 毎日営業が望ましいが、3歳以上だと平日の入場はほぼ見込めない

(5) その他(当該施設の優位性や課題など)

- 近隣にこども関連施設が複数あり、駅直結という環境のため、ついで利用やお出かけ帰りの利用が見込める
- 多彩なテナントが入る複合施設としての集客力、直通線の開通による子育て世帯の転入増の見込みはプラス面
- 集客の観点では、立地や区画の位置に課題がある

(5) その他(当該施設の優位性や課題など) (続き)

- 横浜駅付近の商業施設やみなとみらいには大きな室内遊び場があるため、星川駅周辺の住民以外がいかに認知し、集客を拡大させられるかが課題
- 天井があまり高くないため、インパクトのある大型の遊具は導入が難しい
- 駅改札の背面にあるため、駅利用者に認知される工夫が必要
- 閉ざされた印象があるため、共有部への滲みだし(看板やテーブル・椅子の設置等)が必要
- 未就学児は午前中、就学児は夕方・土日など、時間帯ごとに異なるターゲットを設定してはどうか
- 上瀬谷にテーマパークができることも踏まえた空間づくりができるとうよい